

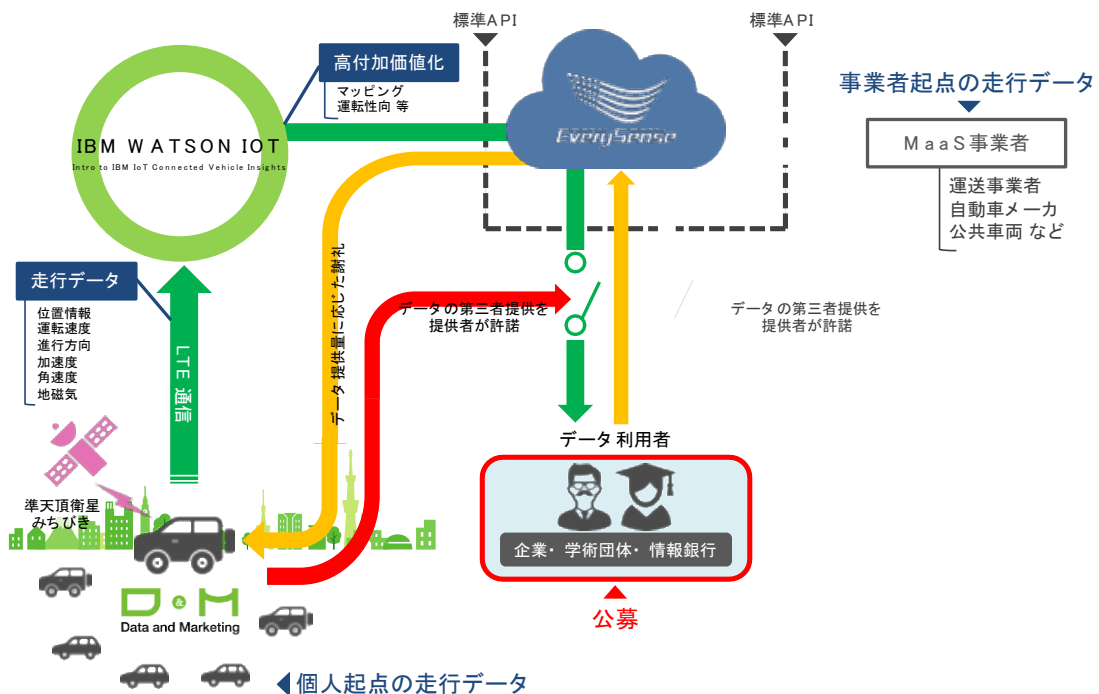
報道関係各位

2019年2月19日  
株式会社ディーアンドエム

**ディーアンドエム、エブリセンスおよび日本 IBM と共同で、  
オープンテレマティクスプラットフォームのデータクラウドファンディングを開始  
～モニター車 1000 台以上から提供される自動車走行リアルタイムデータの利用者を募集～**

株式会社ディーアンドエム (<https://www.d-and-m.co.jp/> 本社：東京都新宿区、代表取締役社長：杉村 昌宏、以下、「当社」) は、当社が保有する「消費者モニターネットワークおよび属性情報」、エブリセンスジャパン株式会社 (代表取締役社長：北田正己、以下「エブリセンス」) が運営する IoT データ取引市場「EverySense」、日本アイ・ビー・エム株式会社 (代表取締役社長執行役員：エリー・キーナン、以下「日本 IBM」) が提供する「IBM IoT Connected Vehicle Insights」を活用し、これまでにないオープンテレマティクスプラットフォームの実証実験 (以下「本プロジェクト」) を行う計画についてお知らせします。

本プロジェクトでは、自動車からリアルタイムで取得できる走行データとドライバーの属性情報を組み合わせた高付加価値データ<sup>1</sup>を第三者へ提供します。本プロジェクトの実施に向け、本プラットフォームから取得できるデータを活用いただける企業・団体を募集します。



<sup>1</sup> データ提供者の属性情報付、地図への合わせこみなどの処理済み、最小分解能 1 秒の高精細位置情報、および最小分解能 0.1 秒の高精細加速度情報、加工しない生データ

図：本プロジェクトのプラットフォームイメージ

## ■背景と目的

自動運転やコネクテッドカーをはじめ、自動車関連産業における研究・開発競争はますます激しくなり、多様な自動車走行データへのニーズが高まっています。

しかしながら、既存のテレマティクスデータは、自動車メーカーによって自社の特定車種およびそのユーザーから取得されたもので、データ収集の範囲や方法が限定的であることから、データ網羅性に欠け、活用範囲も限られていました。

当社とエプシロン、日本 IBM は、このような課題に対し、自動車メーカーだけでなく、幅広い業種・業態で活用できるオープンテレマティクスプラットフォームの共同検討し、2019 年内のサービス提供開始を目指し、実証実験の準備を進めることについて合意しました。私たちは、この取り組みを通して、自動車の走行データを活用した新しいビジネスの創出を支援します。

当社といたしましては、今回の実証実験において、500 万人を超える消費者モニターネットワークからデータ提供にご協力いただく一般モニターを募集し、ご本人の同意に基づくドライブデータの提供を計画しています。

ご参考：本プロジェクトにおける計画

## ■本プロジェクトの特長

### 1. メーカー・車種に依存しないオープンテレマティクス

関東圏<sup>2</sup>において、一般ユーザーが所有する自動車 1000 台<sup>3</sup>に専用デバイスを搭載していただくため、特定のメーカーや車種、運転者属性に限定されないデータの収集・提供が可能に。

### 2. 高付加価値化されたリアルタイム<sup>4</sup>走行データの提供

LTE 回線を用いて逐次リアルタイムに収集された走行データを、日本 IBM の「IBM IoT Connected Vehicle Insights」によって、マッピングしたり、運転性向などのデータに連携させたりすることで高付加価値化を実現。

### 3. データ提供者の本人許諾が得られたデータの提供

当社の 500 万人を超える消費者モニターネットワークおよび属性情報の中から募集し、第三者への提供について事前にご本人の許諾が得られたデータの提供が可能に。

### 4. 走行データ取り扱いのための標準的な API を整備

走行データ取り扱いのための標準的な API を整備することで、既存の MaaS (Mobility-as-a- Service) 事業者の有する事業者起点の走行データとの連携も可能に。

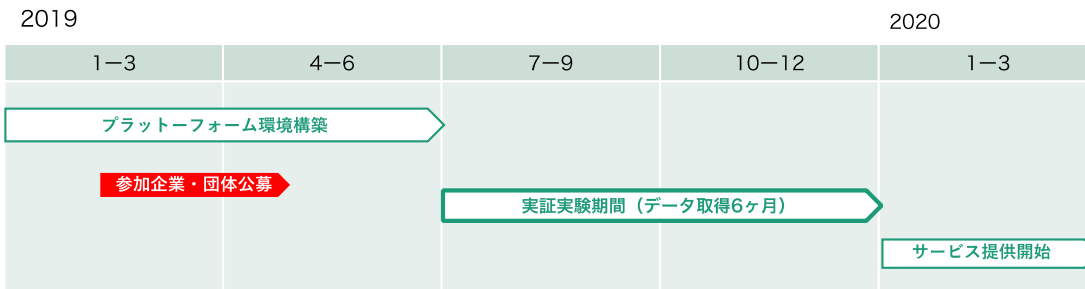
個人情報保護の観点から、収集対象となるデータはユーザーの許諾を得たうえで、第三者（本実証実験にご参加いただく企業・団体）へ提供されます。

<sup>2</sup> 対象エリアは、購入者の希望により調整も可能です。

<sup>3</sup> 購入者の応募状況により、車両数の追加も可能です。

<sup>4</sup> リアルタイム：位置情報は、最小 1 秒間隔、加速度、ジャイロは、0.1 秒の分解能で計測します。

<想定スケジュール>



■ 実証実験概要およびデータ提供先企業・団体の募集について

当社の消費者モニターネットワークおよび属性情報から募集したメーカー・車種を限定しない自動車両 1000 台に、エプソンが新規開発する移動体用デバイス EveryMobile（以下「専用デバイス」）を搭載していただきます。

本実証実験に有償で参加いただくデータ提供先企業・団体（以下「データ収集者」）へは、エンドユーザーの同意のもと、多様なメーカー、車種、運転手属性および運転加速度、進行方向、加速度、ジャイロなどの動作データや、準天頂衛星に対応した高精度 GPS データをもとに付加価値化されたリアルタイム自動車走行データをご提供します。

データ収集者は、実証実験期間の 6 ヶ月間にわたり、当該プラットフォームを通じてデータを取得していただくことが可能です。なお、取得いただいたデータは、実証実験終了後も継続的に活用いただけます。また、期間終了後は、当該プラットフォームを用いた商用サービスを提供し、個別の同意に基づいて、提供者から直接データ提供を受けることも可能とする予定です。

<募集概要>

募集数：10 社・団体

参加費用：一社あたり 1,200 万円（200 万円×6 ヶ月のデータを提供します）

募集開始：2019 年 2 月 20 日より募集開始

※募集定数に達し次第、終了とさせていただきます。

<応募説明会>

本プロジェクトの参加者向け説明会を、以下のとおり開催いたします。

日時：2019 年 3 月 26 日 16 時 00 分から（受付開始 15 時 30 分）

場所：東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー 24F

今後も、当社はおお客様の「マーケティングパートナー」として、複雑化していくニーズや市場環境に対応できるよう、さまざまなデータ、サービスの提供、また連携企業様とのサービス開発を積極的に進めてまいります。

### ■ IoT データ取引市場「EverySense」について

IoT デバイスを所有するデータ提供者が安心、かつスムーズにデータを第三者に提供でき、またデータ利用者が求めるデータを容易に判断して収集・活用できる技術的・制度的環境を整備。提供者自身が取引毎に提供可否を判断・承諾しデータ提供先を決定する仕組みによりデータ提供者の「データをコントロールする権利」を保証。本プラットフォームにおける中核的な仕組みにおいて EverySense,inc.（本社：米国、CEO 真野 浩）が国内特許を取得しています。

### ■ 日本アイ・ビー・エム「IBM IoT Connected Vehicle Insights」について

IBM IoT Connected Vehicle Insights は、つながるクルマのプラットフォームとして、テレマティクス・ソリューションの構築に必要とされる機能をクラウド上で提供します。大量の車両走行状況や道路関連情報をクラウド上で収集・分析し、リアルタイムに道路ネットワーク情報に基づく位置情報サービスや運転支援、Pay How You Drive など様々なサービスを実現を支援します。

### ■ 株式会社ディーアンドエムについて

株式会社クロス・マーケティンググループ（東証一部 3675）の子会社であるディーアンドエム は、全国 500 万人を超えるモニター会員と 2000 を超える属性カテゴリに支えられたビッグデータを活用し、顧客企業のマーケティングをよりの確に、わかりやすく、結果を伴うものにするためのサービスを提供しています。また、このモニター会員はすべてアンケート聴取が可能なモニターであるため、顧客企業が取得したい情報を取得することが可能です。

会社名：株式会社ディーアンドエム

本社所在地：東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー 24F

代表者：杉村 昌宏（すぎむら まさひろ）

設立：2015 年 4 月

URL：<https://www.d-and-m.co.jp/>

<本サービスに関するお問い合わせ先>

株式会社ディーアンドエム 担当：中関裕一

TEL：03-6859-2296 e-mail：[info@d-and-m.co.jp](mailto:info@d-and-m.co.jp)

<本プレスリリースに関するお問い合わせ先>

広報担当：野々宮香子

TEL：03-6859-2259 e-mail：[info@d-and-m.co.jp](mailto:info@d-and-m.co.jp)